

都道府県・ 指定都市番号	24	都道府県・ 指定都市名	三重県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	農業
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ○ 思考力・判断力・表現力を育成する系統的な農業学習の展開に関する研究 ① 座学と実験・実習のバランスを考えた農業学習の展開 ② 生徒の関心・意欲を引き出す系統的な農業学習の指導と評価方法				
指定年度	平成 28 年度～平成 29 年度				
ふりがな 学校名 (生徒数)	み え けんりつあけのこうとうがっこう 三重県立明野高等学校 (589 人)				
所在地 (電話番号)	三重県伊勢市小俣町明野 1481 番地 (電話 0596-37-4125)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.mie-c.ed.jp/hakeno/				
研究のキーワード	座学と実験・実習のバランス, 指導方法と評価方法, 評価基準の共有化, 能動的学習 キャリア教育				
研究結果のポイント	○ 科目「農業と環境」において, 観察・記録・まとめ・分析・考察・発表を行い, 思考力, 判断力, 表現力を身に付け, プロジェクト学習の基本を学ばせることができた。 ○ 科目「野菜」及び科目「食品製造」において, 新たな学習活動を取り入れた指導方法及び評価方法により, 生徒の関心・意欲を高め, 能動的な学習活動へと繋げることができた。 ○ 科目「総合実習」においてインターンシップを実施することで, 社会人としての心得やマナー, 職業観・勤労観が高めることができた。 ○ 学校設定科目「キャリアプラン」における定期的な講演会を通して, 将来の自分の進路について深く考えさせることができた。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

地域農業や地域産業の発展に貢献できる人間性豊かな職業人の育成に関する研究
～思考力, 判断力, 表現力を育むための系統的な農業学習の展開と
その指導方法及び評価方法の工夫改善～

(2) 研究主題設定の理由

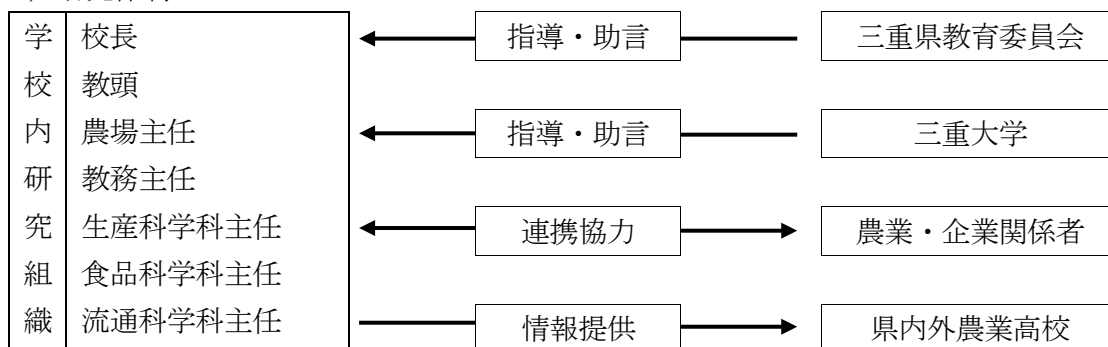
本校は平成 31 年に創立 140 周年を迎える歴史と伝統のある専門高校であり, 地域の社会を担う多くの人材を送り出してきた。現在は農業学科 (生産科学科, 食品科学科, 流通科学科) と家庭学科, 福祉学科の 3 学科があり地域の多様なニーズに対応した魅力ある専門教育を行っている。農業 3 科はこれからの農業や関連産業に必要な専門的な知識・技術に加え, 諸課題を合理的に解決する科学的な思考力の育成を目指し, 平成 27 年度に学科改編を行いリニューアルした。

一方, 近年入学してくる生徒の多数は農業基盤を持たない非農家の生徒であり, 高校に入学して初めて農業に触れる生徒も多い。1 年次に農業に対して持った興味・関心を 2 年次以降の農業学習の深化に繋げるためには, 座学と実験・実習のバランスを考えた系統的な学習や指導方法及

び評価方法についても研究していく必要があると考え、この研究主題を設定した。

また、農業3科が連携したキャリア教育の推進と進路実現に向けた取組を行い、今回の研究と連動させ、生徒の学習意欲を高めたい。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成28年度	1学期	<ul style="list-style-type: none"> 各事業の計画及び日程調整 農業学科における各科目の評価規準の作成 科目「農業と環境」における生徒の現状把握のためのアンケート調査の実施 教員研修会（観点別評価方法・アクティブ・ラーニングについて） インターンシップにおける生徒の現状把握のためのアンケート調査の実施 インターンシップの記録簿の検証と改善・文集の作成
	2学期	<ul style="list-style-type: none"> 同事業指定校への研修視察（熊本県立菊池農業高等学校） 教育課程研究委員会の実施（3回） 研究授業及び文部科学省からの視察 科目「農業と環境」における生徒の現状把握のためのアンケート調査の実施 科目「野菜」及び科目「食品製造」における生徒の現状把握のためのアンケート調査の実施
	3学期	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目「キャリアプラン」の記録簿の検証と改善及びアンケート調査の実施 次年度へ向けた農業学科における各科目の評価規準等の検証と改善 教育課程研究指定校事業研究協議会（国立教育政策研究所）への出席 中間研究報告書の作成

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① 座学と実験・実習のバランスを考えた農業学習の展開

ア 科目「農業と環境」において農産物の栽培等を通じて、観察・記録・まとめ・分析・考察・発表を行うことで、思考力、判断力、表現力を身に付けさせる指導と評価方法を研究する。

イ 科目「総合実習」を3年間通して知識・技術を定着させる中核的科目と位置付け、より効果的な指導方法について研究する。また、インターンシップを農業3科において完全実施し、体験文集やアンケートの考察により社会人としての心得やマナー、職業観・勤労観の変化についても検証する。

② 生徒の関心・意欲を引き出す系統的な農業学習の指導と評価方法の研究

ア 科目「野菜」及び科目「食品製造」の授業において能動的学習（アクティブ・ラーニング

型授業等)を取り入れ指導する。評価方法についてはルーブリックを活用したパフォーマンス評価を研究する。(指導と評価の一体化)

イ 農業3科の特色である「生産」「加工」「流通」分野の教育内容を生かし、6次産業化の研究を行う。

③ 農業3科が連携したキャリア教育の推進と進路実現に向けた取組

ア 学校設定科目「キャリアプラン」において、外部講師による講演会、産業現場見学、先進農家見学、職業別体験学習を行い、将来の夢や進むべき方向性を見付け出させる。

イ 学科の枠を越えた「総合選択授業」で自分の進むべき進路に合わせて科目を選択し、専門的な知識・技術の更なる深化を目指す。

(2) 具体的な研究活動

① 座学と実験・実習のバランスを考えた農業学習の展開

ア 科目「農業と環境」

年間学習指導計画、評価規準、年間評価計画を作成し、生徒の現状把握のためのアンケートを実施した。作物の栽培と管理、収穫を行い、観察・記録・まとめ・分析・考察・発表・評価を行った。農業クラブ活動、プロジェクト学習の基本を学ばせた。さらに、現在の記録簿に自己評価欄を設け、学びを振り返らせた。

イ 科目「総合実習」

農業学習の系統的な知識・技術を定着させるよう指導を行った。インターンシップを農業3科で完全実施し、体験した記録をまとめ、文集を作成した。さらに、アンケートを実施し生徒の意識の変化を検証した。

② 生徒の関心・意欲を引き出す系統的な農業学習の指導と評価方法の研究

ア 科目「野菜」及び科目「食品製造」

能動的学習(アクティブ・ラーニング型授業等)を取り入れた授業の実施と評価方法を研究した。グループ学習においてパフォーマンス課題を設定し、学習活動における評価方法としてルーブリックと相互評価の評価規準を共有化し実施した。

イ 学習・指導方法及び評価方法についての研修会を実施

・ 平成28年4月21日(木)

宇治山田商業高等学校の教頭を講師として招き、全教員を対象に、「多様な学習成果の評価方法について」の研修会を実施した。

・ 平成28年8月17日(水)

産業能率大学の教授を講師として招き、全教員を対象に、「21世紀型能力を育てるアクティブ・ラーニング」と題して、研修会を実施した。

③ 農業3科が連携したキャリア教育の推進

ア 学校設定科目「キャリアプラン」

・ ガイダンスを実施し、学習のねらいについて理解させたうえ、取組を進めた。

・ 地域で活躍している農業自営者、食品製造業や食品流通業に関わる外部人材を招き、講演会を実施した(年間10回)。

・ 記録メモとレポート用紙を作成し、グループ討論を設定した。さらに、アンケートを実施し学習状況の把握を行った。

・ 産業現場見学、先進農家見学を実施した。

3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の結果

【成果】

- 各科目の年間学習指導計画，評価規準，年間評価計画を作成したことにより，指導と評価の一体化を図ることができた。
- 全ての活動についてアンケート調査を実施したことにより，生徒の現状把握と，学習目標や到達点を明確にすることができた。
- 科目「農業と環境」において，作物の栽培と管理，収穫を行い，観察・記録・まとめ・分析・考察・発表を行ったことにより，思考力，判断力，表現力を身に付け，プロジェクト学習の基本を学ばせることができた。
- 科目「野菜」及び科目「食品製造」において，新たな学習活動を取り入れた指導方法及び評価方法により，生徒の関心・意欲を高め，能動的な学習活動へとつなげることができた。
- インターンシップを通じ実社会や多くの人に接する経験により，職業観・勤労観が身に付き，社会生活における基礎的な能力への自己認知を図ることができた。
- 学校設定科目「キャリアプラン」では，地域で活躍している外部人材を招き，講演会を実施したことにより，生徒の職業への興味・関心を高め，自分の将来の夢やそのため必要となる学習活動について，深く考えさせることができた。

【課題】

- 各科目における年間学習指導計画・評価規準・年間評価計画について，更なる工夫や改善の必要がある。
- 生徒の現状を把握するためのアンケート調査となるように，内容の検討や，生徒と調査結果の共有化を図る必要がある。
- 科目「農業と環境」において，記録簿の内容，まとめ・分析・考察・発表の時期と方法について他科目と連携を図り，より効率的な学習指導計画に改善する必要がある。
- 科目「野菜」及び科目「食品製造」において，能動的な学習活動を深めるために，学習指導計画や評価方法について，生徒が理解しやすい内容への工夫や改善の必要がある。
- インターンシップにおいて，記録簿や評価について工夫と改善の必要がある。
- 学校設定科目「キャリアプラン」において，その後の学習活動への影響を分析する必要がある。

(2) 今後の取組

- ① 系統的な学習が進められるように，農業科目の年間学習指導計画を作成する。
- ② 生徒の現状を把握するためのアンケート調査の内容を検討する。
- ③ 科目「農業と環境」において，データ収集としての記録簿を見直し，ポートフォリオ評価を行う。
- ④ 各科目において，能動的な学習を進めるために，座学と実習のバランスを考えた年間学習指導計画を作成し，ルーブリックによる評価を行う。
- ⑤ インターンシップの記録簿の工夫や評価方法を検討し，意識調査の結果を生徒と共有化できるようにする。
- ⑥ 将来の進路に合わせた農業学習の深化を図るための「総合選択授業」を実施する。
- ⑦ 農業3科の連携による6次産業化への取組を実施する。